



色即是空と 空即是色

就実女子大学
就実短期大学
学長 柴田 一

「般若心経」は釈尊の教えを簡潔にまとめた仏教の根本教典ですが、その中に「色即是空」「空即是色」とあります。釈尊は弟子の舍利子に、まず「色は即ち是れ空なり」と教えましたが、つづけて「空は即ち是れ色なり」と説いています。このところが大切であります。「色即是空」これは確かに真理ではあるがあくまで一面の真理、その一面の真理に執着してはならない。「空即是色」という他の一面の真理のあることを忘れるなど、実に親切に教えています。ところで「色即是空」の「空」

って何でしょうか。「空」は「無」ではありません。「空」がもし「無」であれば「空」が「色」に転じて「空即是色」となるはずはありません。従って、「空」というのは「有」と「無」という相矛盾するものを統一的に体現した概念ということになります。

なんのことやらようわからんという人たちのために、室町時代の禅僧一休宗純(一三九四～一四八二)の詠歌を借用して説明してみよう。

年々に咲くや吉野の桜花
樹を伐りてみよ花の在処を

春に美しい花を咲かせた吉野の桜も、やがて花は散り葉は落ち、冬ともなると枯れ木同然、「色即是空」であります。しかし再び春が巡って来ると、枯れ木同然とみえた桜の樹が、まるで蘇生したかのようになり花をつける。「空即是色」であります。では冬の間、桜の樹はどこに花を蔵していたのでしょうか。樹を裂いてみても、花も蕾もありません。「無」であります。しかし冬の

間の「無」は単なる「無」ではなく、春の「有」を秘めた「無」であります。この春の「有」と冬の「無」を統一したものが、それが「空」であります。

近ごろ「不易流行」という言葉をよく耳にするようになりました。これは芭蕉の弟子の土芳という人が「三冊子」の中で師の俳風を紹介したもので、その俳風の神髄は「風雅の誠」であるが、それは「不易」と「流行」の両面をもつ。つまり変えてはならないものと、変化させなければならぬものがある。いずれか一方に執着してはならないというのであります。一面の真理に執着することを戒め、相矛盾するものの統一の把握の大切さを教えたものであります。

伝統と創造、儒道と儒法、不借身命と可借身命というものもみな然りであります。このようなものの方、考え方が、教養ある日本人の伝統的な発想でありました。現代を生きる私たちにも何か大切なヒントになると思いませんか。(福武文化振興財団理事)

助成の募集について

福武文化振興財団 文化関係助成

平成十四年度
平成十四年三月～三月末

対象 岡山県内の社会人で、文化活動や調査研究をしている個人・団体。平成十四年度より連続助成はなく、継続の場合は隔年による助成となる。

助成額 一件の上限：三十万円

応募方法 公民館等に配布した所定の申請書（HPからダウンロードすることも可能）に記入し、三月三十一日までに財団あてに郵送。詳細は募集要項、当財団のHPを参照。

問い合わせ 福武文化振興財団事務局（武、榎本）まで

福武教育振興財団 教育関係助成

平成十四年度
平成十四年四月～五月初旬

①教育研究助成

教育の内容、方法等に関する実践的研究を助成するもの。応募資格は岡山県下の学校の教職員と教育委員会所轄の研究機関の職員など。助成額は一件の上限二十

五万円、四十件程度。

②図書助成

図書館の図書等の充実による図書館利用の進展と読書活動の振興を目指して助成するもの。一件の上限二十五万円、三十件程度。

③教育研究大会等助成

岡山県内で開催される教育研究大会等を支援するために助成するもの。大会により十万円から三十万円を助成する。予算の範囲内で随時受け付け。

④英語教員研修助成

三年間限定事業の最終年。英語教員の「コミュニケーション能力の向上を目的とする。対象は小・中・高で英語を担当する教員二十名。夏期に十二日間の集中レッスンを受ける。レッスン料及び教材費一人約五十万円を助成する。

*以上は平成十三年度の実績。詳細は平成十四年三月の理事会で決定後、配布する募集要項、または当財団のHPを参照していただきたい。(樽井)

福武教育振興財団
福武文化振興財団
HPアドレス
<http://www.fukukake.or.jp>

文化発表会

平成十二年度
文化関係助成対象者による

平成十三年九月二十二日(土) 福武文化振興財団は、「文化発表会」を開催した。小寺聰副理事長が「岡山の文化を広げ、深め、高めていくための役割の一端を担いながら、今後の在り方についても模索していきたい。」とあいさつした後、七団体がステージ発表をした。中でも、長屋神楽同好会による「大國主命の舞」では、お福(餅)が配られ、参加者に喜ばれた。また展示発表では、十四個人・団体が写真やパネルを展

示したり発刊物を配布した。今回は、会の名称を「成果報告会」から「文化発表会」にし、参加者相互の「コミュニケーション」をより図りやすくするために「懇親会」を「懇談会」にして展示会場で行い、希望者によるスピーチの時間を設けた。また会の企画をはじめ、当日の受付などを有志の方に協力いただいた。スピーチの中で山陽町民音楽祭実行委員会代表・三村勉さんは「助成を受けた者が互いの情報交換をしながら、文化向



ドラネコ座によるミュージカル「迷・舞・My Life」の一場面

上のためのネットワークを広げよう。」と提案した。

文化関係助成審査委員会現代文化部会・目瀬守男座長は、「故山口前理事長がこの財団を起されたときのことを思い起こし、今まさに岡山県の文化が芽生え始めたのではないかと感じた。」と閉会のあいさつの中で述べた。(榎本)



福武教育奨励賞を 受賞して

岡山市立岡輝中学校
教諭 久山 将弘

授業中に、次の時間に提出する宿題のプリントをさせることがあります。そのようなとき、友だちがかなりできたころに答えを写させてもらった生徒が何人かいます。しかし、答えがわからないからといって、友だちに尋ねようとはしませんし、写させてあげている生徒も何とも感じています。

私は、なぜ、「わからないから教えて」という会話がなれないの不思議でなりません。問題を解く中で身に付けるのは知識だけなのでしょうか。ただ見ていると時間がつぶれていくビデオやテレビ。パナーチャルの世界に全エネルギーを注いで競い合うゲーム。

何もしゃべらなくても商品を買ったことができる「ネット」しゃべりたいときに、いつでもどこでもその相手だけに話ができる携帯電話。相手の顔や性格を知らなくても文章をやりとりできるメール。子どもたちの周りから、人としてのぬくもりを直接感じたり、人と人とのかわりや考えたりする機会が急速に失われています。このことは同時に子どもたちの「人間関係づくり」を阻害してしまうおそれがあります。つまり、子どもたちのなかで人とかかわることが煩わしく思う傾向が進んでいくことになるでしょう。

私は、どのような教育改革が行われようとも、人とかかわることの大切さを子どもたちに感じさせていくことを教育の基本に置いて、日々、ささやかな研究を続けております。

このたびの栄えある福武教育奨励賞の受賞を励みに、さらに「人間関係づくり」を研究していく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

◎ ステージ発表 ◎

- ドラネコ座 (ミュージカル)
- 高梁三曲会 (ビデオ上映)
- 朗読塾 (朗読)
- 山陽町民音楽祭実行委員会 (ビデオ上映)
- 山陽子ども劇場 (人形劇)
- 長屋神楽同好会 (備中神楽)
- きんちゃい座 (ミュージカル)

◎ 展示発表 ◎

- 〈伝統文化部門・文化活動〉
岡山県青年団協議会
境神社獅子舞保存会
備中神楽 倉敷社
- 〈伝統文化部門・調査研究〉
赤松 寿郎
真庭遺産研究会
成羽古文書研究会

〈現代文化部門・文化活動〉

- 秋山 基夫
エストゥディオコジマ IN KURASHIKI
岡山映画祭2000実行委員会
岡山県歌人会
さわらび会

〈現代文化部門・調査研究〉

- エコウェブおかやま
岡山要約筆記クラブ
作州野鳥の会